

ご教示願います！ SDGsの取り組み方

Vol.26

2025年現在、IoTや5Gの普及加速、LED照明に代表される省エネについての提案営業、脱炭素社会の実現（カーボンニュートラル）、太陽光発電、蓄電池などエネルギー分野の発展、建築業界における働き方改革など、私達、電材業界が取り組まなければならない社会的・環境的貢献課題は、まさにSDGsの課題そのものです。

しかしながら、「SDGsに取り組みたいが、どのようにして進めていけばよいか分からない」という声を多く頂いた事から、すでにSDGsに取り組まれている会社様へ緊急取材をお願いし、SDGsとは何なのか、取り組む事のメリットなどをお伺いし、組合員会社様のSDGs取り組み会社増へと繋げる記事を連載致します。

第26回目の今回は、広島単組所属のシンセイ株式会社様を訪問し、森昭英代表取締役社長、斜木重久業務部部长、山本ちひろ業務部係長にお話を伺いました。



左から、森昭英代表取締役社長、斜木重久業務部部长、山本ちひろ業務部係長

「私達の業界は社会のインフラを整備する、夢がある仕事」

SDGsに取り組んでいる会社は、「ゆとりがある会社」という良い印象を持つ

事務局 SDGsの取り組みを始められたきっかけをご教示頂けますか？

森社長 就活生の面接をする中で、入社希望の会社を選ぶ判断基準の一つに、SDGsに対する貢献を重視している学生が多いと肌で感じました。また、金融機関の方々と話す中でもSDGsという言葉がよく出てきたことから、企業として出来る事からやってみようという取り組みを始めました。

事務局 SDGsに取り組まれてから、社内や周囲からの反響はどうでしたか？

森社長 社内への浸透はまだまだですが、取り組みを始めてから、取引先との関係や人材確保、資金調達等の企業活動という面、異業種の会社様からの認知

等、周囲からの評価は一つ上がったように感じます。

HPに掲載している取り組みは、他社様の取り組み公表を参考にして作成しました。私自身もSDGsの17項目を学ぶ前は大変そうなイメージでしたが、勉強していくと今まで取り組んできたことが当てはまるという事が分かりました。

取り組みを明確に示せたことで、当社の企業理念でもある「電気を通して、平和で明るく豊かな未来を創造する。社員とその家族の幸せを追求する」というメッセージが具現化されたように思います。

人材採用に関しては、SDGsの取り組みを公表してからは応募者数増まではいきませんが、取り組んでいなかったら減少していたと思います。

得意先の電気工事店様でもSDGsの取り組みをお見受けすることもありますが、電材業界への浸透度は高まっています。

ると感じます。

山本係長 今年の新卒社員に、企業がSDGsに取り組みることについてイメージを伺ってみたのですが、SDGsに取り組んでいる会社は、「ゆとりがある会社」という良い印象を持つようです。自社の中だけではなく、社会や他者に対しても気を配れている証と感じ、それが応募をする上での安心感や信頼に繋がるそうです。

事務局 貴重なご意見、大変ありがとうございます。余裕が見える会社は確かに安心して働けそうなイメージですね。

電線ドラムの回収・リサイクルはSDGsの取り組みです。

事務局 HPを拝見しますと、販売した電線のドラムを回収・リサイクルをされているという記載がありました。こちらの取り組みは、SDGs項目の12番「つくる責任 つかう責任」に繋がる取り組みです。こちらは他社様でもよく行われていると思いますが、意外にもこれがSDGsに繋がっていると気づかれていない会社様もありますので、内容をご教

示頂けないでしょうか。

森社長 電線ドラムの回収・リサイクルは、昔からある電材卸商社の慣習です。電線を販売している卸商社のほとんどは、現場で不要となった電線ドラムを回収し、メーカー様へ返却して、その電線ドラムをまた利用して電線を販売しています。

当社は、他社様よりも電線やケーブルの販売ウエイトが高い方ですから、現場納入したものを帰ることは1つの流れになっています。

斜木部長 持ち帰ったドラムはピロティにまとめて、ある程度まとまった時に返却していますが、およそ、月に1000



月に100ドラム以上の電線ドラムの回収・再利用を行っています。

ラム以上の回収・再利用を約20年前から継続しています。

森社長 不必要な空ドラムを高額に買い取る業者も中にはいますが、私達は購入したメーカー様に返却しています。メーカー様から返却した分のバックは頂きませんが、そちらは慈善団体への寄付に充てて有効活用しています。

採用が難しい時代だからこそ、一人の社員が貴重な戦力です。日々健康であって頂きたい

事務局 続いて、福利厚生介護休業制度についてお伺いしたいです。SDGs

sの項目5番「ジェンダー平等を実現しよう」に繋がる取り組みで、HPには「家族が介護を必要とする社員に配慮」という記載がありますが、どのような対応をされているのでしょうか。

森社長 昔、私の娘が小さい頃に半年ほど入院したことがあり、病院から会社に出勤していたことがありました。その経験から家族の病气や介護を必要とする社員には、会社として応えてあげたいという想いがあります。会社は社員がいな

れば成り立たないですし、社員も会社の制度を上手く活用して人生を過ごして欲しい。仕事も大事ですが、人として一番大切な家族を大切にしたい。会社として出来る範囲で社員のバックアップをしていきたいと思っています。

具体的な例を挙げますと、以前、親御さんの介護が必要になった社員に対して、相談をして雇用日数を変更して介護と両立出来るような勤務体制を整えたことがありました。

育児に関しては現在、数名います。以前は男性の育児取得もあり、半年程度でしたが、しっかりと対応しています。復帰率も100%です。

制度に当てはめるのではなく、社員の家庭事情を考慮した上で、柔軟に対応しています。

ただ、こういう対応が出来るのは、当社が100人程度の会社だからなのかもしれません。従業員数の多い会社だと全従業員とのコミュニケーションは難しいと思いますし、反対に従業員数の少ない会社は1人抜けたら会社として業務に負担がかかりますので、全員の顔を見届けられる100人程度の会社だから出来るこ

となのかもしれない。

山本係長 実際に育休を取得された方にお聞きしますと、「戻れる場所があるから、安心して子ども向き合える」とおっしゃっています。

産休・育休を取得した人数が増える程、女性社員も長く勤めやすくなるのかなと思います。

森社長 様々な事情に応じた対応を積み重ね、時代に合わせた改善を出来るようになってきていると感じています。

斜木部長 森社長は厳しさの反面、介護にしても育児にしても、社員だけでなく、社員の家族まで大切にしてくれるスタンスですから、凄く働きやすい職場を作っていると感じています。

森社長 大まかではありますが、1人1人の社員の家族構成は把握しています。風通しは良い方だと思います。有給を取らない社員に対しては口うるさく言いません。また健康診断に関しても、毎年実施している検査内容以外に、節目の年齢の社員にはプラスチックの項目検査を義務化し、受診させています。その後、再検査が必要な社員のフォローも、随時行っています。

採用が難しい時代だからこそ、一人一人の社員が貴重な戦力ですので、日々健康であって頂きたい。そのため、会社として出来る範囲のバックアップを行っています。

働く社員の皆さんが当社で働いてよかったと実感してもらえれば会社に力になるように日々努力し続けること

事務局 福利厚生の中に、カープ観戦や女子会という楽しそうな取り組みも見つけました。SDGsの項目8番「働きがいも経済成長も」に繋がる取り組みですので、ご教示頂けないでしょうか。

森社長 カープ観戦や女子会については、社員同士のコミュニケーションの場になっていきます。社員旅行もほぼ全員が参加しますから、みな楽しみにしています。**山本係長** 女性社員は20名程度おり、女子会が始まったのは、12・13年前で、全社で行うようになったのは昨年からです。

森社長 当社の商材を納めた飲食店様から「ぜひ、来てください」とお声掛け頂き、利用することがあるのですが、そ

ういうきつかけから「じゃあ、女子会を」と始まった次第です。

山本係長 単なる息抜きのおしゃべり会というより、どちらかというと仕事にまつわる話が多いです。業務上の悩み相談や、新しい販売システムの導入について、育休から復帰したらどういう風に時間をやりくりしているか等を話しています。

森社長 プライベートで親睦を図ってもらいたい気持ちもありますから、現状は年1回の活動ですが、もう少し増えたいと思っています。

事務局 そういう親睦会があると、新入社員の方も安心すると思います。

森社長 カープ観戦については、市民球



年1回全営業所の女性社員を集めて、「女子会」を開催しています。

場時代から年間指定シート約70試合分を購入しており、社員に配布したり、数試合はお客様にお渡しすることもあります。対戦カードによっては抽選になります。勿論、平日の業務後に観戦する社員もいます。

斜木部長 平日観戦の方が多いです。社員だけではなく、社員のご家族に渡す場合もあります。

事務局 野球好きの私にとっては、羨ましい限りです。また、シンセイ様はいくつかの球場に会社名広告掲載をしているというお話も伺いました。

森社長 一つは、2024年春に開業したサツカーのサンフレッチェ広島ホームグラウンド、エディオンスタジアムに建設寄付を行いまして、壁に掲載されています。

また、女子硬式野球チーム・はつかいちサンブレイズに対しては、女性の活躍出来る環境を広げようという思いから協賛企業として登録し、運営資金の援助、球場環境の整備に微力ながら携わっています。

お得意先様から紹介頂いたのがきっかけでしたが、元々、個人的にスポーツ観

戦は好きですし、広島はスポーツが盛んです。ですので、スポーツを通した様々な話題が、社内や商談の際に上がります。著名な施設に商材を卸すことは、社員にとっても自分が働いている会社が広島で有名なスタジアムの一部に関わっているという誇りになると思います。

私達の業界は社会のインフラを整備する、夢がある仕事です。スポーツ設備に納入する仕事は花のある仕事で憧れもありますし、会社としてもPRに繋がります。

例えば、マツダスタジアムのナイター設備は当社が納入させて頂いており、業務で携わるとその施設に親しみを感じます。来年から照明メーカーが変わり、当社も担当を外れてしまいますが、これまでシーズンが始まる前は、グラウンドに入つて社員皆で照度測定を行っており、それは凄く楽しみでした。

事務局 確かにスポーツ施設に携わる業務は社員さんも仕事が楽しくなると思います。転出超過3年連続ワースト1位の広島ですが、だからこそ、働きやすい職場にして、外からも来るような広島にしようという気概をシンセイ様から感じ

ました。

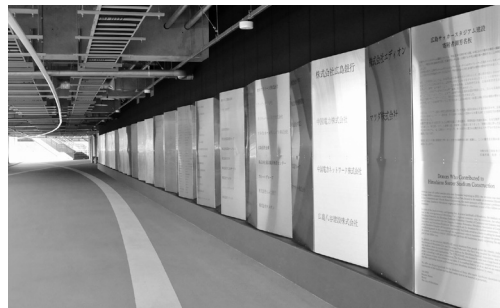
森社長 ここ数年は退職して、他府県に行つた後、戻ってきてまた働いてくれている社員が数名います。

社員が辞めた際は、彼らの人生だから仕方ないことと、落ち込んだことは多々ありましたが、また戻ってきてくれると即戦力として働いてくれますから、有難いことです。

企業の存在意義は社会の役に立つことですから、働く社員の皆さんが当社で働いてよかつたと実感してもらえる会社になるように日々努力し続けることだと思います。

シンセイ様から伺ったSDGsに取り組むポイント

1. SDGsの取り組みを公表することは、就活生達から「社会貢献に配慮した会社」という良いイメージを持たれる武器になる。
2. 採用が難しい時代だからこそ、一人一人の社員が貴重な戦力になるので、社員の健康を労わったり、退職しても「戻りたい」と思われる経営が必要。



広島サッカースタジアム建設寄付者御芳名板に、シンセイ様の会社名が記載されています。



女子硬式野球チームのはつかいちサンブレイズのボールパークの外野フェンスに、シンセイ様の会社名が記載をされています。



過去の掲載分は、全日電材連ホームページ「SDGsへの取り組み」にて掲載中。

<https://www.jeda.or.jp/sdgs.html#sdgsNews>

※SDGsに取り組み、取材許可を頂ける会社様がございましたら、全社伺わせて頂きます。全日電材連・事務局・伊達までご連絡下さい。(03-3541-7192)

シンセイ様のSDGsの取り組みは、
<https://www.shinsei-1950.co.jp/sdgs/>
からご確認下さい。